



2011年4月25日

各 位

会 社 名 株式会社トランスジェニック
代表者名 代表取締役社長 福永 健司
(コード番号 2342 東証マザーズ)
問合せ先 取 締 役 坂本 珠美
(電話番号 078-306-0590)

新規膵臓がんマーカーの診断応用に向けた共同研究に関するお知らせ

株式会社トランスジェニック(代表取締役社長：福永健司、熊本県熊本市)と株式会社免疫生物研究所(以下、免疫生物研究所)(代表取締役社長：清藤勉、群馬県藤岡市)との間で、当社の新規膵臓がんマーカーに関して、診断応用に向けた共同研究契約を締結しましたので、お知らせいたします。

このたびの共同研究は、2011年3月11日締結の当社と免疫生物研究所との包括的な業務提携の一環として、当社が独自技術であるGANP[®]マウス技術により作製した、新規膵臓がんマーカー候補タンパク質に対する高親和性抗体の診断応用に向けた検討を行うものであります。

今後、当社は当該抗体の診断応用に向けたキット化、また免疫生物研究所はキットの最適化及び有用性検証と基幹技術の相互補完を行い、両社共同で新規膵臓がんマーカーの診断応用の研究を進めてまいります。また、本共同研究契約をはじめとした、包括的業務提携のシナジー効果を高め、相互の事業基盤の強化と将来に向けた持続的な事業発展を押し進めてまいります。

当社は、腫瘍マーカーを中心とした診断薬シーズとなる抗体開発を進めておりますが、本共同研究により、これら開発パイプライン研究進捗の加速化を図るものです。

本共同研究契約の平成24年3月期の連結業績への影響は軽微であり、業績予想に変更はありません。

◆ご参考 : GANP[®]マウス技術

GANP (Germinal Center Associated Nuclear Protein) とは、熊本大学 阪口薫雄教授らにより発見された遺伝子で、抗体を産生するB細胞で発現しています。

GANP[®]マウス技術とは、このGANP遺伝子を過剰に発現させたGANP[®]マウスを用いて抗体を作製する技術です。GANP[®]マウスで得られる抗体は、親和性や特異性の高いことが特徴で、診断薬や抗体医薬の開発への展開が可能です。

: 膵臓がん

膵臓がんは、癌の臓器別死因順位が第5位ですが、末期になるまで無症状であること、また、膵臓そのものが体の奥にあることから発見が困難な癌であり、最も悪性度の高い疾患の一つです。現在の診断方法としては、血中のCA19-9、CEA、CA50等の腫瘍マーカーの測定やCT等の画像診断が実施されています。

以上